

鋼製建具〔標準型建具を含む〕

1. 評価対象

「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（以下「標仕」という。）令和4年版16章4節に規定する鋼製建具とし、標準型鋼製建具も含むものとする。

なお、片開き、親子開きおよび両開き戸の1枚の戸の有効開口幅は950mm以下、有効高さは2,400mm以下とする。

2. 品質・性能等

- （1）品質・性能について、「評価内容（別紙）」の項目を確認している。
- （2）主要な資材について、材質および資材メーカーから申請者の製造所への納入ルートを確認している。
- （3）性能について、実施要領に規定する試験機関による試験結果等で確認している。

3. 標準型鋼製建具

評価の対象とした標準型鋼製建具は、形状寸法および金物の統一化を行い、作業の効率化とコスト縮減などを目的としている。
なお、品質・性能は、2.（1）によるほか、以下のとおりである。

有効内法寸法	幅	900mm または 950mm
	高さ	2,000mm または 2,100mm
建具用金物	錠 類	シリンダー箱錠
	ハ ン ド ル	レバーハンドル（アルミニウム合金製）
	丁 番	ステンレス製（ただし、内部の水掛かり以外に使用するものは鉄芯も可とする。）
	ドアクローザ	露出タイプ

4. 名簿の「申請者一覧」に関する注意事項

- （1）簡易気密型の鋼製建具を申請していない場合は、「申請者等情報」の「特記事項」に（簡易気密型を除く）と表示している。
- （2）標準型鋼製建具を申請していない場合は、「申請者等情報」の「特記事項」に（標準型建具を除く）と表示している。
- （3）有効開口幅は950mm以下、有効高さは2,400mm以下としているが、有効高さが2,400mmの鋼製建具を申請していない場合は、「申請者等情報」の「特記事項」に（有効開口寸法はW=950・H=2,100mm以下に限る）と表示している。

評価内容

鋼製建具〔標準型建具を含む〕

1

項 目			品 質 ・ 性 能		備 考			
材 料	鋼 板	材 質	JIS G 3302 による。なお、あらかじめ、りん酸塩処理またはクロメートフリー処理による化成皮膜処理を行ったものとする。					
		めっき 付着量	JIS G 3302 による Z12 または F12 以上					
	形 鋼		JIS G 3101					
	く つ ず り (点検口の類は 除く。)	材 質	JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1					
		表 面 仕上げ	HL					
	上 吊 建 具 の 下 枠 (ガ イ ド レ ー ル 等)		JIS G 4305 による SUS304、SUS430J1L または SUS443J1					
	気 密 材 (簡易気密型に適用)		合成ゴム (EPDM、クロロプレン等) または合成樹脂 (塩化ビニル等) の類					
	押 縁 留 付 け 用 小 ね じ		ステンレス製					
	構 造 用 接 合 テ ー プ		JIS Z 1541					
接 着 剤		アクリル樹脂系またはウレタン樹脂系の 2 液形						
形 状 ・ 仕 上 げ	鋼 板 の 厚 さ		区 分		使用箇所	厚さ (mm)		
			窓	枠 類	水切り板、枠、方立、無目、 ぜん板、額縁			1.6
					出 入 口	枠 類		一般部分
			くつずり					1.5
			戸	かまち、鏡板、表面板		1.6		
				力骨		2.3		
				中骨		1.6		
			その他	額縁、添え枠		1.6		
				補強材の類		2.3 以上		
	製 品 の 寸 法 許 容 差 ・ 相 対 す る 辺 寸 法 の 差		対象部位		ドアセットの寸法	許容差 (mm)		
			幅および高さ	2,000 未満		± 1.5		
				2,000 以上 2,400 以下		± 2.0		
			枠見込	120 未満		± 1.0		
				120 以上 150 未満		± 1.5		
				150 以上 200 未満		± 2.0		
				200 以上		± 2.5		
			対象部位		ドアセットの寸法	相対する辺寸 法の差 (mm)		
幅および高さの 相対する辺寸法 の差			2,000 未満		2 以下			
			2,000 以上 2,400 以下		3 以下			

評価内容

鋼製建具〔標準型建具を含む〕

2

項目		品質・性能	備考
形状・仕上げ (続き)	ガラス溝の寸法、形状等	[申請者の規定による。]	
	外部に面する建具の水抜き孔	網入り板ガラス、線入り板ガラス、合わせガラス及び複層ガラスを受ける下端ガラス溝には、径6mm以上の水抜き孔を2か所以上設ける。また、セッティングブロックによるせき止めがある場合には、セッティングブロックの中間に1か所追加する。	
	素地ごしらえ・錆止め塗装	あらかじめりん酸塩処理またはクロメートフリー処理による化成皮膜処理を行った亜鉛メッキ鋼板を用い、錆止め塗装は、標仕の「表18.3.5 亜鉛めっき鋼面の錆止め塗料塗り」の「A種」とすること。	
加工・組立	全 般	注 意 点	加工および組立は、以下の内容を標準とし、特に雨仕舞および開閉具合に注意すること。
		溶 接 部 、 隅 、 角 等	組立後、平滑に仕上げること。
		溶融亜鉛めっき鋼板の溶接部、損傷部等	塗装に先立ち、パテ処理等を行い、平滑に仕上げること。
		外 観	建具には、使用上有害なきず、欠け、割れなどがないこと。
	枠 類	枠	隅は、上部は留めとして溶接または縦延ばし胴付き（面落ち可）溶接、下部は胴付きとし、外部に面するものは溶接とすること。ただし、屋内（水掛りを除く。）に使用する鋼製建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ2.3mm以上）によることができる。
		く つ ず り	外部に面するものは両端を縦枠より延ばし、屋内（外部建具の屋内側を含む。）は縦枠内に納め、裏面で溶接すること。
		水 切 り 板	両端は、水返し付き、枠に小ねじ留めまたは溶接とすること。
		中 か も い 、 無 目	両端は胴付き溶接、外部に面する箇所は見え掛りを避け胴付き部を全て溶接すること。ただし、屋内（水掛りを除く。）に使用する鋼製建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ2.3mm以上）によることができる。
		方 立	両端は、胴付き溶接とすること。ただし、屋内（水掛りを除く。）に使用する鋼製建具は、溶接に代えて小ねじ留め（裏板厚さ2.3mm以上）によることができる。
		額 縁 、 ぜ ん 板	隅は留めとして溶接または縦延ばし胴付き（面落ち可）溶接とすること。
		枠類のつなぎ補強板	枠、くつずり、水切り板等の見え隠れ部には、つなぎ補強板を、両端から逃げた位置から間隔600mm以下に取り付けること。
		金物取合い補強板	枠の丁番、ドアクローザ、ピボットヒンジ等が取り付け箇所には、裏面に補強板を取り付けること。
	戸	縦がまちと上がまちの取合い	留めまたは胴付きとし、溶接または小ねじ留めとすること。小ねじ留めの場合は、裏面に補強板を当てること。その他は、胴付き溶接とすること。
		中抜き	1枚板を中抜きする場合は、四隅を溶接すること。
		下がまち	下部を包まず、□形の力骨を通してはめ込み、溶接または小ねじ留めとすること。

評価内容

鋼製建具〔標準型建具を含む〕

3

項 目				品 質 ・ 性 能		備 考				
加工・組立 (続き)	戸 (続き)	鋼板	表 面 板	力骨および中骨にかぶせ、接合は溶接、接着または小ねじ留めとすること。ただし、中骨は、構造用接合テープによることができる。						
			押 縁	小ねじ留めとすること。						
			外 部 に 面 す る 両面フラッシュ戸	下部を除き、三方の見込み部を表面板で包むこと。						
		力 骨 、 中 骨		力骨は戸の四周に設け、中骨の間隔は 300mm 以下とすること。						
		金 物 取 合 い 補 強 板		錠、丁番、ドアクローザ、ピボットヒンジ等の取り付け箇所には、裏面に補強板を取付けること。						
性 能	ね じ り 強 さ		開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。							
	鉛 直 荷 重 強 さ		残留変位が 3 mm以下で、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。							
	開 閉 力		戸が円滑に開くこと、また円滑に閉じること。							
	耐 衝 撃 性		1 回の衝撃で有害な変形がなく、開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。ただし、ガラスの破損は判定に含まない。							
	開 閉 繰 返 し 性 能		開閉に異常がなく、使用上支障が生じないこと。							
	気 密 性 [付帯性能]		<table><tr><td>気 密 性 の 等 級</td><td>A-3</td></tr><tr><td>気 密 等 級 線</td><td>A-3 等級線</td></tr></table> 通気量が JIS A 4702 の図 1 に規定する気密等級線以下であること。		気 密 性 の 等 級	A-3	気 密 等 級 線	A-3 等級線		
	気 密 性 の 等 級	A-3								
気 密 等 級 線	A-3 等級線									
水 密 性 [付帯性能]		<table><tr><td>水 密 性 の 等 級</td><td>W-1</td></tr><tr><td>サッシ前後の圧力差</td><td>100Pa</td></tr></table> 加圧中 JIS A 1517 に規定する枠外への流れ出し、しぶき、吹き出し、あふれ出しの状況が発生しないこと。		水 密 性 の 等 級	W-1	サッシ前後の圧力差	100Pa			
水 密 性 の 等 級	W-1									
サッシ前後の圧力差	100Pa									
試験方法	1. ねじり強さ試験は、JIS A 1523 による。なお、載荷荷重は 200N とする。 2. 鉛直荷重強さは、JIS A 1524 による。なお、載荷荷重は 500N とする。 3. 開閉力試験は、JIS A 1519 による。なお、載荷荷重は 50N とする。 4. 耐衝撃性試験は、JIS A 1518 による。なお、砂袋落下高さは 170 mm とする。 5. 開閉繰返し試験は、JIS A 1530 による。なお、開閉回数は 10 万回とする。ただし、ラッチの開閉試験は除く。 6. 気密性試験は、JIS A 1516 による。 7. 水密性試験は、JIS A 1517 による。 8. 試験体サイズは、W 950mm × H 2,400mm 程度とする。									